

## エッセイ

私は昭和三五年に国際労働課の課長補佐になって初めて国際労働機関（ILO）とご縁ができました。昭和三七年にそのILOのフェローシップ（奨学金）を得て、半年間ヨーロッパの国々を歩き、北欧諸国等の労働者福祉の実態を視察、勉強しました。

当時は、公務員にとって他に留学という制度はなく、国際機関からの援助が殆ど唯一のチャンスでした。1<sup>ドル</sup>三六〇円のレートでしたが有難く頂き、大切に使いました。

半年の研修期間が終わった時、ちょうどILO総会がジュネーブで開かれ、労働省からも何人か出張して来られ、私もその下働きに使っていただきました。それがILOの会議に接した最初で、各国の代表団の若手とも親しくなり、交流が長く続いた人もあります。その後、ILO



# ILOと私

森山真弓（衆議院議員  
ILO活動推進議員連盟会長）

関連の会議にはたくさん出ました。

昭和五〇年の国際婦人年の頃、高橋展子先輩をILO事務局長補に推せんし、見事に成功したのも誇らしい思い出です。

昭和五五年に議員になってからは、東京支局出身の中西珠子先輩と一しょになり、政界もILOのことに、もっと関心をもってもらいましょうと「ILO活動推進議員連盟」というのを作り、私が会長になりました。そして常にILOとコンタクトを持ち、ILO事務局長ほか責任者が来日されると勉強会をし、私もジュネーブへ他用で行った時にはILOに表敬訪問をします。特にバンコックにあるアジア太平洋地域事務所とは密接に連絡して、関係国に視察に出かけたりもしております。

ILOは私に常に寄りそって、助け、励ましてくれるのです。